

Vol. 31 No. 3
2014. Dec



秋田県作業療法士会 印刷

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp/>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・水原 寛
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail has80970@snow.odn.ne.jp
川嶋印刷株式会社

巻頭言 生涯教育制度について思うこと

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 川野辺 穰

私が教育部長として生涯教育制度と関わるようになって 10 年になろうとしています。5 年ごとの更新で少しずつ様変わりして現在に至ります。今年度からは認定作業療法士、専門作業療法士の資格認定試験が開始となり、現在認定作業療法士が 636 名、専門作業療法士が 67 名で、認定作業療法士は全会員 49027 名の 1.3%、専門作業療法士は 0.1% になります。この数字が多いか少ないかは議論があるところですが、少しずつですが数は増えてきています。

先日生涯教育に関する会議があり、その中の資料に認定作業療法士新規取得者に対するアンケートの結果が提示された資料がありました。興味深かったのは、取得に要した期間は平均 5.1 年、困難であった取得要件の 1 位が事例報告であったことです。

認定作業療法士は、制度規程に定義されていますが、「作業療法の臨床実践、教育、研究及び管理運営に関する一定水準以上の能力を有する作業療法士を本会が認定した者をいう」となっています。これだけを聞くと非常に敷居の高いものと感じますが、入職後、新人から中堅に移行する 5 年~10 年後には、職場での立場もある程度変わり、責任のある役割が増えるはずで、新人や学生の指導、自分の研究発表、職場での委員会出席など確実に職場での存在感は上がっていると思います。そうした時期に合わせて、臨床実践のほかに、教育・研究・管理運営といった取得共通研修を受けてみるのはどうでしょうか？認定作業療法士取得研修は決して特別な研修ではありません。研修に出られた方はわかりますが 2 日間みっちりグループワークですが、上記のテーマを突き詰めることができる研修です。必ず日々の仕事に跳ね返ってくると思います。また選択研修では各分野、身障部門であってもテーマが変わっていて、回復期であったり、訪問であったりと内容が工夫されています。詳しい内容は 5 月頃に届く研修のしおりまたは HP に記載されています。今年度はもう終わりに近いですが、今年度の研修を参考に、来年度の研修予定を立ててみるのはいかがでしょうか？(⇒HP からの申し込みも可能となりました)

アンケートにもあったように取得には 5 年近くの時間を取得された皆さんは要しています。研修 5 講座(計 10 日間)、事例登録 3 題(要件緩和あり)を終えるのは時間と労力とお金が必要ということです。1 年 1 講座、その中で事例報告を行うという計画は、取得への意識があれば何とかなるかもしれません。また事例については、今年度から私の職場でも、作業療法士全員が事例報告を行い発表しました。日々の臨床や家庭に追われるなか難しいことだということは分かりますが、いざ始めてみると自分が行って

きたことを振り返りまとめてみることの大切さを痛感するとともに、患者さんに対する見方が変わります。また後輩から指導を依頼されるたびに、自分の勉強にもなったと感じています。個人ではなく施設単位での取り組みが、施設全体のレベルアップ、しいては作業療法士全体の専門性や社会的地位を高めることになるはずで。このことは一例ではありますが、事例登録制度をさらに盛り上げ、認定作業療法士取得への足掛かりになると思うのです。

生涯教育制度は確かに自己研鑽の場であり強制するものではありません。ただし必要ない、認定作業療法士なんて意味が分からないと決めてしまう前に、一步踏み込んでみてはいかがでしょうか？必要のない研鑽などありません。この制度を作る際には金曜日仕事終わりに担当者の先生方が東京に各地から集まり、会議・議論を重ねてきたものだと思っています。私自身はこうした生涯教育制度への参加の橋渡しができればと感じています。

印象記 第25回 東北作業療法学会に参加して

JA 秋田厚生連 大曲厚生医療センター 菊地 翼

平成26年9月27日、28日の両日に及び岩手県盛岡市で行われた第25回東北作業療法学会が開催されました。「東北に生きる、東北が活きる」のテーマの下、2日間の日程でしたが、私事により、私は27日のみの参加となりました。1日だけの参加でしたが、その中で学んだことや印象に残ったことについて述べさせていただきます。

開会式後に行われた特別演題では、夢のみずうみ社の藤原茂先生が、「い・き・る支援」について講演されました。「い・き・る支援」をする必要がある方、要はクライアントですが、クライアントに対して、どのように先生が実践なさっているか、そして実践するに至るまでの背景にどのような考えを根底に持ち、取り組んでいるのかということも藤原先生独特の語り口調で話され、息つく暇もなくあっという間に時間が過ぎていったことを覚えています。なかでも「意志がしっかり働き始めたら生活行為力は確かなものになる」という言葉が特に印象に残りました。クライアントに作業療法を提供することで、生活の幅を広げたり、質を向上させたりというのはもちろん重要なことだと思いますが、クライアントが「何かしたい」「どういうふうになりたい」と思って頂いたり、そのような考えを起したり、引き出したりしていくことも重要だと改めて感じました。そういった「意志」があるからこそ、「生活行為」へと進んでいけるのではないかと思います。また、そのような「意志」を引き出すことも作業療法士にとっては重要なことではないかと思います。

午後から行われた一般演題発表では、他県で活躍されている先生方の実践報告を聞かせて頂きました。私は急性期で身体障害を主に担当しているため、そちらの内容を重点的に聴講してきました。新たなことを学ぶ機会になったことはもちろんですが、何よりも大勢の聴講者の中で物怖じせず、堂々と発表する姿勢や発表に至った経緯やその後のまとめ方など、自分の研究や報告の魅せ方も学ぶことが出来たような気がします。

このような学会に参加するたび、「そろそろ演題発表しなくては」と思うのですが、なかなか実行に移せず、臨床に出て早3年が経過するところです。日頃の慌ただしい業務をこなしていくだけでなく、臨床研究や演題発表等、自己研鑽にも励みたいと思う今日この頃であります。最後になりますが、あまりにも拙い文章ではありますが、以上で印象記を終わらせて頂きたいと思います。最後まで読んで頂いたことに感謝申し上げます。

印象記 第25回 東北作業療法学会に参加して

秋田東病院 小野寺 佑麻

「立派な建物だなー」。盛岡には何度か訪れたことはあったのですが、今学会が開かれた「いわて県民情報交流センターアイーナ」に足を入れたことは初めてでしたので、最初にそう感じました。恥ずかしながら、田舎人丸出しですね。況してや新人であり、東北学会への参加は初めてであったということもあって、緊張や期待感でやや気持ちが昂っていた部分もあったと思います。

第25回東北作業療法士学会は、「東北に生きる、東北が活きる」がテーマの下、9月27日、28日に開催されました。あまりに気合を入れ過ぎたのか、だいぶ早く到着してしまい、小一時間の時間あったのですが、少しずつ席が埋まり活気の出た会場の様子を見ていたり、大学の同期や先輩、実習等でお世話になった先生方と挨拶や言葉を交わしたりする中で、あっという間に時間が経過していました。

開会式が始まるころには、会場はほぼ満員となっていました。その中で、学会長である公益財団法人いわてリハビリテーションセンターの鷹嘴悦子先生や、日本作業療法士協会会長、中村春基先生の挨拶等が行われ、学会の幕が上がりました。個人的には、いつも協会誌等で見ている中村先生の挨拶を生で聴けたことは、有名人にでも会ったのと似た感覚を得たように感じました。

今回の特別講演としては、株式会社夢のみずうみ社の藤原茂先生の「い・き・る支援」、特別講座としては、復元納棺師である笹原留似子先生の「～いのち輝くとき～」というテーマの下、非常に貴重なお話を聴かせていただきました。このお二人のお話を聞いて、共通して感じたことは、「自分の職業や仕事に自信や誇りを持っているなあ、」ということでした。特に、作業療法士でもある藤原先生は、自分なりの確固たる理論や信念を持っている方でしたので、極論に近い部分はあったようにも感じましたが、聴いていて「この人かっこいいな」と思えました。私も、こういった多くの考え方、理論を聴いて、自分なりの理論や信念を持つ作業療法士、人間になっていけるよう努めていきたいです。また、中でも特に印象に残っているお話は、「感激の素の発見」についてのお話です。人それぞれが持っている「感激の素」を発見し、それをフィードバックすることの重要性について教えていただきました。その何気ない「感激の素」を発見することが、作業療法士に大切なスキルの一つなのだろうなと思いました。

笹原先生からは、東日本大震災での「復元ボランティア」の体験談を中心に涙なしでは聴かれないようなお話から、気持ちの暖まるようなお話、笑い話、脱衣婆のホラー画像... と幅広いジャンルのお話をしていただけました。一つ一つのエピソードが心に響きましたし、命の尊さや生きるとはどういうことなのかを改めて考えさせられたように思います。

一般演題では、自分の分野である精神分野を中心に聴講しました。様々な先生方の発表や質疑応答を聴き、多くを学ぶことができましたし、なにより刺激を貰った様に感じます。「私もいずれは誰かに刺激を与える側に立てるようになりたいな、」そんな目標を持たないようにも思えます。そのためにも、日々の業務の中での積み重ねが大事になってくるのだと実感しました。

また、二日目の昌賢学園 群馬医療福祉大学准教授 山口智晴先生の「認知症に対する作業療法」というテーマの教育講演も聴講させていただきました。現在、私の受け持ちも認知症治療病棟ということもあり、学会前から非常に興味深かった講演でした。講演を聴いて、自分の知識不足、勉強不足を痛感したのと同時に、こうゆう風に支援していければな、という将来のビジョンを建てられたようにも感じます。どんな形であれ、これを今後は患者さんに還元できたらと思います。

今回の学会では、多くを学び、多くの刺激を貰い、そしてこれからの目標を持つことができました。非常に有意義で、実りある二日間だったように感じています。余談ですが、夜の大通りで店がなかなか

見つからず、先輩が御冠になりかけたことも、今となっては良い教訓となっています。その際に自分たちの作業療法に対する考えを述べ合ったことも良い思い出となっています。ここで得た知識や経験を日々の業務の中に活かし、また微力ながらも秋田県、東北の作業療法の発展にお力添えできればと思います。

最後になりますが、今回の学会長である鷹嘴先生をはじめとした実行委員の皆様、発表をされた先生方に深く感謝申し上げます。

印象記 第25回 東北作業療法学会に 参加してみて～4年目作業療法士の経験～

中通総合病院 小国 美宏

「この患者さんとの関わりを学会で発表してみたら？」

今回の東北学会に一般演者として参加しようと考え始めたのはこの一声からでした。

私は入社して3年間回復期病棟を担当していました。3年目になると後輩が増え、新人という枠から外され、学生指導までしていました。3年という月日は私に浅い経験と慣れを与えていました。そして経験年数が順調に増えていくのに対して、それに伴う知識と技術が自分にあるのかを不安に思い始めていた時期でもありました。そんな時期に担当したある患者さんとのリハビリは、私の浅い経験を覆し、良い意味で刺激的なものとなりました。その経過を見ていた上司から「この患者さんとの関わりを学会で発表してみたら？」と声をかけられました。自分のやってきたことを形にすることができ、他の先生から御指導を頂ける。そして今回の開催地は岩手県盛岡市。私が通っていた岩手リハビリテーション学院がある場所であり、今回発表をすることで専門学校時代の恩師へ感謝も伝えられるという気持ちから参加を決めました。

最初に取り組んだのは介入内容のまとめとテーマ決定で、その後、抄録に取り掛かりました。抄録を作るにあたって今までの学会誌を参考にみていた時は、こんなに書けるなんて凄いなと思っていました。しかし実際は自分の伝えたいことはたくさんあり、決められた字数内に収めることの方が大変で、本当に苦労しました。抄録の締め切り前日に抄録を上司に確認してもらおうと「この抄録は東北で通ると思うの？」「専門性に欠ける」など言われました。言葉が出ないくらい悔しかったのを覚えています。それもあって、締め切り直前まで手直しをし、結果自分の納得のいく内容で提出することができました。多くの情報をまとめて誰かに伝えるという作業は学生のレポート作成と似ており、実際にOTSへのアドバイスが以前よりしやすくなっていました。スライドは発表前日まで手直しし、「初めて聞く人にも分かりやすく」を目標に作成しました。スライド作製も苦労しましたが、患者さんとの関わりを思い出す機会にもなり、担当PTとその頃の話をしたりと楽しい記憶にもなりました。

学会当日は不安と緊張でいっぱいでした。しかし会場に行くと専門学校の恩師、同級生、職場の方たちと会うことができ、激励の言葉をたくさんもらいました。発表では会場に同級生や同じ職場の人が聞きに来てくれました。また娘の晴れ舞台ということで両親も私の発表を聞きに盛岡まで来てくれました。沢山の方々の応援があったことで心強く、発表に集中することができました。発表は大きな問題なく終えることができ、福島県の先生から質問を頂くことができました。また医療に携わっていない両親が「分かりやすかった」と言ってくれ、達成感と充実感いっぱい学会を終えることができました。

公開講座は「いのち輝くとき」をテーマに復元納棺師の笹原留似子さんがご自身の仕事の内容や経験

を話して下さいました。私は今回の学会で初めて復元納棺師という仕事があることを知りました。復元納棺師は亡くなった方の表情を生前に近付けるお仕事であり、特に笹原さんはその人にしかない笑い皺を作ることを大切にしているということでした。笹原さんは東日本大震災でボランティア活動をしており、その活動のなかで亡くなった奥さんを子どもたちに会わせたいとの依頼があり、復元をしたそうです。東日本大震災では火葬が追いつかず腐敗が進んだご遺体が多く、復元を希望される方が多かったそうです。復元後、奥さんの顔を見た依頼主である旦那さんは「子どもに会わせられる」と涙ながらに話していました。このような経験談や著書の「おもかげ復元師」のお話を聞いていると涙が止まらなくなり、命の大切さを改めて感じることができました。

今回きりたんぽの印象記を書く機会を頂いたことを嬉しく思います。東北学会後は職場の異動があり、ゆっくり振り返りができていませんでした。印象記を書くことで学会の振り返りができ、本当の意味で東北学会を全て終えられたと思います。そして奮闘した記録を形に残すことができたことも嬉しく思います。今まで自分のやってきたことを振り返るという機会はいつも誰かの一言があっただけでできていました。今後は自分の成長の為に、自分自身のやってきたことを自分で振り返る機会を作っていきたいと思います。最後になりますが、今回東北学会に発表するにあたって最後まで熱心に御指導して下さいました上司や先輩、応援して下さいました恩師、同級生、職場の方達、またずっとサポートしてくれていた家族には本当に感謝しています。そして何より発表の機会を作ってくれた患者さんには本当に感謝しています。今後も感謝の気持ちを忘れず日々精進してきたいと思っております。

「プロカウンセラーの聞く技術」

書評

著者：東山 紘久
価格：1512円(税込)

出版：創元社
214頁

秋田東病院 藤井 沙織

まだまだ若輩者の私が言うのも何ですが、作業療法士の大事なスキルの一つに「傾聴」があると思います。ましてや私は精神科病院での勤務、訓練中やそれ以外の時間でも、患者様の悩みや訴えを傾聴することは本当に大切だと日々感じています。しかし私は根っからの聞き下手。しっかりと聴いて受け止めているつもりではいますが、果たして患者様自身がそう思ってくれているのかはわかりません。何よりプライベートでは、私の反応を見て友人や同僚に「話聞いてないでしょ？」といわれることもしばしば。(友人たちの話に関しては、実は聴いてないこともありますが。)そんなことがあろうとも気にしていないように見られますが、実はとても気にしていて、こんな本を手にとってみました。

この本は、現役ベテランカウンセラーの方が、「聴く技術」を事細かに解説してくださっています。相槌のタイミング、種類、沈黙の取り方、聞き出すためのテクニックなどなど、項目ごとに事例を交えながら説明してくれています。交えるどころか、ほとんどが事例なので、実用書というよりは、短編集といった雰囲気です。サクサク読み進められます。

本を読むのが苦痛な方、時間のない方でも大丈夫です。31ある項目の題名だけでも「なるほど。」と考えさせられるようなことばかりでした。例えば、「評論家にならない」、「LISTENせよ、ASKするな」、「聞き出そうとしない」、「したくない話ほど前置きが長い」などなど。でも結局は、読み進めたいと思っております。

最初の項目である「聞き上手は話さない」という文で、ことにプライベートでは自分のことばかり話してしまう私は最初読み進めることを諦めそうになりましたが、そこはさすが筆者もベテランカウンセラーです。聞き上手であるだけでなく伝え上手でもありました。聞き下手な私にとっては、耳の痛くなるような文章もありましたが、それでも投げ出すことなくスムーズに読了できました。気付けば、自分の患者様との接し方、職員とのコミュニケーション、友人や家族との会話など、様々な場面を当てはめながら読んでいる自分がいました。

普段当たり前のように交わしすぎていて、なかなか意識できずにいた「会話」について、考えてみる事ができました。心の中ではいつも少し構えていた、患者様の悩みなどを傾聴することも、今なら心持ち上手に聞くことができるような気がしています。「聞くのに上手も下手もあるか!」と半ば聞き直っていた私ですが、この本を読んで、「聞き上手になりたいな・・・」と感じました。少しずつですが、この本の技術を毎日の会話に取り入れていきたいと思います。今まで私と会話して打っても響かないと感じていた方、そしてこれから私と会話する機会のある皆さんは、どうぞご期待下さい!

シリーズ「作業療法と生活考」NO. 58

下肢のつけ根はどこ？

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

このシリーズのNo56で「うでのつけ根」について書きましたが、覚えていらっしゃるでしょうか。その中で最後に「あしのつけ根」について宿題を出しましたが、いかがでしょうか。

今回は、脚（足）のつけ根について考えてみましょう。その前に同じ「あし」と表現する下肢、脚と足をどのように使っているのでしょうか。一般的に、足はくるぶしから先の部分、脚は太ももより下の部分、下肢は胴体から分かれ出た部分をさすことが多いようです。英語で足はFOOT、脚はLEGになります。また、「足」は人、「肢」は哺乳類、「脚」は昆虫で用いることも多いです。そこで足のつけ根、脚のつけ根、下肢のつけ根で答えが違ってくるかもしれません。ここでは下肢を使って考えてみたいと思います。

皆さんは体幹を前屈、あるいは腰を曲げる時、どこから曲げたほうが理にかなっているのでしょうか。セラピストですので股関節と回答する方が多いと思います。しかし、腰椎で曲げている方もいます。

これは股関節の位置が体の奥にあり、正しい位置が認識しにくく、イメージしにくいこともあるかもしれません（図参照）。股関節は大転子で確認しているかもしれませんが、触診は大腿骨頭部で行うと分かりやすいです。鼠径部の中心あたりを触って、腰を突き出して盛り上がってくるようになります。下肢を過伸展から屈曲させても分かります。屈曲させると骨頭の突出感がなくなります（詳しくは触診の教科書を参考にしてください）。

この部分を意識して前屈すると、意識しないよりも床に指が近づくことを体験できると思います（ぜひ試して確認してみてください）。よって脚のつけ根は股関節になります。但しこれは前屈するときのつけ根です。この運動は骨盤、股関節と腰椎の連携した動きですが、「腰をまげる」の言葉にとらわれて習慣的に曲げてしまうと、腰椎を損傷する可能性もあり、腰痛になるかもしれません。腰椎を意識して曲げるのではなく、股関節で曲げることを習慣にしてください。

この脚のつけ根は歩く時には少し違ってきます。四つ這いで上から見た骨の図を想像してください。

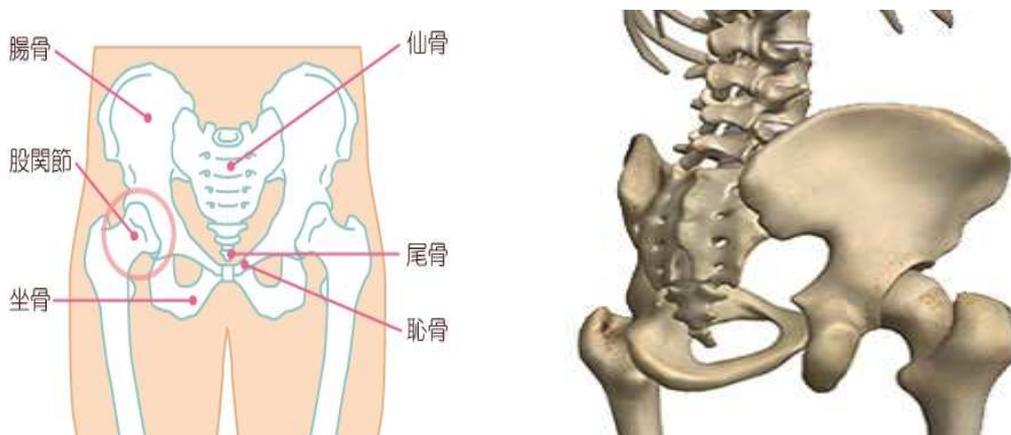
脊柱（頸椎から仙椎、尾骨）と接しているところに、仙腸関節（仙椎と腸骨の間）があります。ここが移動や歩く時のつけ根になります。仙腸関節は強い靭帯で固定されていますが、わずかな可動性をもっています。上後腸骨棘の内側下側の仙骨にそって触ることができます。そこを触って歩くとわずかに動くことが分かります。

よって歩くときは、股関節よりももう少し上の仙腸関節を意識して歩くことも大切です。みぞおちを意識して歩くことを勧めている方もいます。我々の普段の歩き方で参考にしてみてください。

これらのつけ根を意識することで腰痛予防にもなります。また、歩容姿勢や歩き方も変わってきます。しかし、この股関節の動きは総合的な動きです。そこでの純粋な股関節（寛骨大腿関節で考えると）の屈曲角度は約70度だといわれています。股関節の屈曲は120度とされていますが骨盤も含めた総合的な動きです。次回はこれらの動きについて考えてみたいと思います。

参考文献

- ・澤口祐二：アウェアネス介助論
- ・野見山文宏：感じてわかるセラピストのための解剖生理



<http://allabout.co.jp/gm/gc/24950/> より引用

職場紹介

介護老人保健施設 昭平苑 由利 俊一

みなさんこんにちわ。

昭平苑は平成5年に開設となったゴールドプラン時代の古〜い、いや老舗の介護老人保健施設です。(ゴールドプランという単語を使うにあたり、原稿を書いている人の年もバレますね。)当時は車椅子利用の方が20名程度で比較的ADL自立度の高い方が多かったため、リハ職種1名でも何とか対応できる時代でした(現在は車椅子80台以上完備!)

介護保険がスタートし、超高齢化社会を迎え、県内各地の老健に勤務するリハ職種もびっくりするくらい増えました。小規模多機能というのが時代の最先端に対し、こちらは入所と短期入所が100名、通所が20名という大規模多機能型施設です。ですが時代の流れに負けないよう、我がリハビリ科もOT5名+助手1名体制で、個別対応を中心とした手厚いリハビリテーションを提供しています。設備は古いのですが、創意工夫を重ね、自給自足の精神を忘れず、リハビリ科職員一同日々心身をフル回転させております。

在宅復帰率は決して高いとはいえませんが、特にこれと言って皆様にお見せできるような何かはありませんが、事前・事後の訪問、外部機関のケアマネとの情報交換、信頼関係を重視したきめ細かな対応など、リハビリ科から積極的に情報を発信していくフットワークの軽さには自信を持っております。

おかげさまで人数は少ないですが他の部門に埋もれることなく強烈な存在感を放っております。日々の仕事に悩んでいる方がおりましたらどうぞ見にいらして下さい。



かづの元気フェスタ活動報告

秋田労災病院 中央リハビリテーション部 鈴木 健一

平成26年9月21日に鹿角市役所周辺を会場として「かづの元気フェスタ」が開催されました。「かづの元気フェスタ」は、地域の人と人とのつながりや理解を深め、安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域産業の振興と社会福祉の向上を目的に毎年行われています。

会場では、「ちびっこ広場」「体験広場」「食の広場」「暮らしの応援広場」「催し物広場」「健康広場」「人・もの交流広場」「環境広場」の8つのブースに分かれて開催され、各ブースとも大勢の方が来場され、大変な賑わいを見せていました。私たち秋田県作業療法士会のブースは「健康広場」内に設けられ、作業療法をより身近に感じてもらうと活動を行いました。内容としては、ビデオやポスターによる作業療法の紹介および住宅改修・福祉用具、病院や施設でのリハビリの紹介、また、作業療法体験として革細工キーホルダーの制作を体験していただきました。来場者のなかには、「リハビリって何？」と質問される方や「リハビリって理学療法だけじゃないの？」と思っていた方もおり、作業療法がまだまだ浸透していない印象がありました。しかし、このようなイベントを通して、いろいろな方に作業療法を知っ

でもらう良い機会になったのではないかと感じました。革細工の体験では、友達同士、親子連れと様々でしたが、子供たちの姿が多く見られました。四苦八苦しながら完成させたキーホルダーを手に、子供たちは満面の笑顔。なかには子供よりも夢中で制作している親御さんもいました。たくさんの方々に革細工を体験していただき、当ブースは昨年よりも来場者数が多く、お昼どきもなかなか途切れないほどでした。

私は今回初めて参加させていただきましたが、秋田大学の高橋恵一先生をはじめ、大湯リハビリ温泉病院のみなさんと協力して無事に終わることができました。また、たくさんの方々にご来場いただき、作業療法について少しでも興味や関心を持って頂けたのではないかと思います。しかし一般の方にはその理解度はまだ低く、今後もこのようなイベントなどを通して作業療法を発信し続けることが大切だと感じました。以上、簡単ですが活動報告とさせていただきます。



財務部からお知らせ

11月現在で年会費を納入されていない方が多数おります。

未納の方は至急納入をお願いします。

振込用紙を紛失された方は下記銀行口座に納入願います。

秋田銀行 広面支店

口座番号 1010129

口座名義 一般社団法人秋田県作業療法士会 代表 高橋敏弘

年会費に関するお問い合わせは財務部長 高橋恵一

E-mail k-yan@hs.akita-u.ac.jp まで。

納入してけれ~!!



編集後記

だんだんと寒さが厳しくなる今日この頃。皆さんは体調など崩されておられませんか？私は急激な気温の変化に適応出来ず、体調を崩してしまう時もありました。これから、もっと寒い時期が続きますので、熱い鍋でも食べて、体調を整えていきたいと思います。皆さんも体調管理に注意して生活して頂きたいなと思います。

編集担当(FUJI)

広報部から

・会員異動の際は、お早めにお知らせください。

県士会ニュース「きりたんぼ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際はお早めにお知らせください。連絡先は事務局メールアドレス has80970@snw.odn.ne.jp です。ご協力よろしくお願い致します。

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換してお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

創業120周年の福祉機器と
リハビリテーション機器の総合メーカー

酒井医療株式会社

仙台営業所

〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井字遠藤 47-1
TEL 022-390-6840 FAX 022-390-6842